

# NAGANO-KEN CLUB

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

jia-naga@jeans.ocn.ne.jp

JIA 長野県クラブ



Vol.76

2008

01.01

## 「住宅設計長野県スタイルを目指して」

JIA長野県クラブ事業委員長 荒井 洋

あけましておめでとうございます。年末には最後のプレゼンテーションをしておこうと休日返上で施主の間を走り回って、新しい年を迎えることができました。

建築基準法の改正と厳格な取り扱いから始まり、瑕疵担保責任保険の義務化も決まりました。私達を取り巻く環境は益々厳しくなり、建築家としての個々の裁量などといえる物がほとんど無くなり、デザインまでもが法律に縛られしていくことが懸念されます。このままでは益々ハウスメーカーが規格化という武器を使って躍進することは明らかです。軒の出や屋根勾配あるいは屋根形状まで審査官がチェックしてくる可能性もあります。こんな馬鹿な話はありません。しかし法律を作らなければならぬような原因を作ったのも仲間達なのです。JIA会員外の建築士のしたことで我々には関係ないという考えは一度改める必要があります。誰でも「この程度なら」という考え方で多かれ少なかれ法律に触れないにしても、きわどい設計はしたことがあるでしょうし、雨漏りの経験者も多いはずです。そういう私も雨漏り経験者です。厳しい法改正の原因を作ったのが業界の責任である以上、それを正すのも業界の責任です。

中信地区では住宅が完成するとお互いに見せ合って批評しあう習慣がいつごろからか始まり定着しつつあります。方向性やデザインは様々ですが皆さんすばらしい設計をします。この様な関係は正直厳しいものがあります。手を抜いた設計はすぐに見破られ厳しい指摘を受けるか、無言の避難を受けます。またお互いに情報交換を繰り返すため、相手がグレードアップしていく様子が良く判ります。周辺に強力なライバルが何人も出現することになりマイナスではないかと考えがちですが、これこそが長野県の建築家が生きていく道ではないかと考えます。高品質の住宅を多数の建築家がバリエーション豊に設計し発信することにより大きな受け皿となり、住宅設計はJIA会員に依頼しようという事がごく普通になること。これを住宅設計長野県スタイルとでも呼びましょう。フランス印象派の時代、多数の画家が競い合って大きなうねりを作りました。「JIA会員（建築家）でなければ住宅設計が出来ない長野県」と陰口をたたかれるような時代を我々も作れるはずです。



JIA長野県クラブ幹事会(12/8)



本音で語ろう会(12/8)



技術交流会(12/8)

## 「JIA建築家大会2007東京」に参加して(10/17~10/20)

今年は東京での大会ということで、長野県クラブからも西沢会長を初め10人を超える会員が参加した。私はいつもの優柔不断さで事前登録していなかったので会場で直接申し込みをして入場した。

今回私は大会式典とそれに引き続く基調講演とパネルディスカッション、翌日は東京の景観に係るシンポジウムと環境建築についてのクロストークセッションと盛り沢山のプログラムに参加することができた。CPDも20単位以上一度に取得できて、今年度分の36単位は何とか達成できる見通しがついた。これも大会に参加する大きな意味合いの一つである。参加したプログラムはいずれも今話題のあるテーマを取り上げていて、参加している会員の方々の熱気が充満しており、トークセッションは会場が狭く

赤羽 吉人(林魏建築設計事務所)



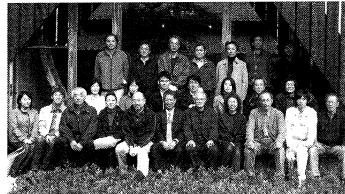
て入りきれないほどであった。担当している東京の地域会の方々も事前によくテーマを絞り込んであって、かなり充実した内容が盛り込まれていた。我々長野県クラブが担当するとしたら、どんなテーマでどんなコーナーを提供できるだろうかと思いを巡らせながら、楽しませて頂いた。

長野に在住する会員にとっては、年に一度のJIAの仲間作りにもうってつけのチャンスといえる。今年2月には新潟県新発田市で保存問題の大会が予定されている。こちらにも是非参加しようと思う。

## 「建築見学会」に参加して(主催:会員委員会)

住宅街を抜けた先の樹木の茂る中に「焼杉ハウス」が少し見えた。想像よりも小さい。けれど、建築はもちろんだが、建築と融合した敷地全体の持つ力がグッと私に迫る感じがした。

構造・形体・素材のそれぞれの個の主張がプラス方向に融合した



建築見学会(長野市・焼杉ハウス)(11/10)

から生まれる力のだと思う。意思があるのだろうと思う。玄関扉を開けて中に入る。低い天井、広すぎない玄関。幅の狭い扉の前室を抜け、「洞窟=居間」に誘われる。栗荒

## 「街並ウォッチング」に参加して(主催:まちづくり委員会)

地元会員の廣瀬氏などの案内により、長野市内街並みウォッチングが開催され、中心市街地活性化の取り組みを見学した。

まず、行政の方より中心市街地活性化新基本計画についてレクチャを受けた。その後街歩きとなり、善光寺表参道を南下しながら、ぱていお大門周辺、パン屋小路の入る再生ビル、トイゴー、もんぜんぶら座とめぐり、最後にまちづくり協議会と(株)まちづくり長野の方より再びお話を聞いた。

それぞれの話から、やはり現在の日本の地方中核都市共通の問題が浮かび上がる。すなわち市街地人口の減少、高齢化。地価下落、売上の減少など。長野市もこの構造的問題から例外ではなく、平成12年ダイエー、そごうの撤退という現象が起きている。

しかし、さすが県庁所在地だけありその後の対応が素早かったようだ。7年後の現在、トイゴーが完成し見学をした個々の建物などが点から線、そして面へと確実に新しい街を造り出している雰囲気がある。行政、民間、3セクがバラバラとならず足並みをそろえて、同じ方向を向いてきた成果が現れつつあるように思える。これは、地元の人間が地元に根を張り、地道に活動してきた成果と講

池森 梢(萌建築設計工房)



板の一体化した床・壁・天井に包まれ、重さのある空間に心地よさを覚える。回帰。人が持つ深層の空間感覚に響く。営みを楽しみ、糧を見出す場所として、始まりの空間なのだと感じた。

建築の生み出す力を一貫して受け続けた見学会となりました。写真などの2次元の世界では感じることのできない感覚を肌で感じ、響かせることができ、建築の「元」を再認識することが出来ました。日常の中で鈍ってしまった感覚を研磨して、空間づくりに向かっていこうと思います。

清水 国寿(しみず建築工房)



師の顔から推察できる。

このようなことは、街並の見学だけではなかなか理解するのは難しい。当事者、関係者の生の声があるからこそ、短時間で、理解を深められる。特に都市再生のような息の永い事業の理解には今回のようなレクチャと見学をセットとした企画は有意義である。

とかく、どこの街にもある活性化計画は、お題目のみで実行が伴わない。中央のコンサル任せの計画書など見栄えは良いが、わが街への愛情など注がれてはいない。長野市ですらこれだけの時間を費やし、やっと活性化の芽が出了始めたところだ。街づくりは地元に根付き地道に息永く。長期にわたるテンションの維持と地元の人材が不可欠ということを改めて認識させられた1日でした。



長野市中心市街地まちあるき(11/10)

## 自分たちの想いを届けたい……

予定通り、「信州の建築家とつくる家・第4集」を11月末に発刊出来ました。皆様方の努力とご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

第4集の発刊には今まで以上に特別な想いがありました。①JIA=建築家の社会的地位の向上を目指す活動の中心的なメディアに育てたい。②編集作業も活動と捉え、JIA会員同士の交流と結束を一層強めたい。③これから毎年発刊する事を目指して、基本的な仕様決めを今回行う。④作品を掲載することで、個人の資質も益々高まる事を期待。⑤混沌とした社会情勢の中、自分たちの存在の情報発信は最重要課題。⑥建築家紹介ビジネス等の氾濫に対して、正しい『建築家』の姿を表現したい。⑦11月発刊は絶対目標とする。

志半ばの部分もありますが、編集作業を通しては幾つかのプレ

『愛と情熱第4集』出版部会長 新井 優



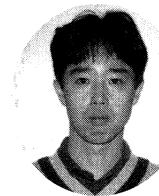
イクスルーが有り、その時々に皆様に助けて頂きました。個性ある信州の建築家が一つの目標に向かって汗を流す素晴らしい活動になったと思います。発刊後、各方面からお褒めの言葉も頂き、書店では売り上げ好調との事。また、今回は各地の図書館を重点目標として配本しています。

『建築家』の呼称が第三者の営業戦略に乗って、本人の意志とは違う方向で社会に伝えられています。この様な状況を打開するためには自分たちで努力するしか方法はありません。他人に頼っていては独立した建築家の職能を守ることは出来ません。皆さんで『信州の建築家とつくる家』を育てていきましょう! 目線は低く・志は高く、次集以降は今回の36名以上のご参加を期待します。

## 本音で語ろう会に参加して

07年は、私たちにとって激動の年でした。基準法の大改正による混乱はまだ納まりそうも有りませんし、次も控えています。また、メーカーによる不正の発覚や大手ゼネコンの施工ミス等、建設業界全体の信用を無くす問題がニュースをにぎわせました。そんな中、「現在の建築を取り巻く環境とJIAの今後」と題し、五つのテーマに分かれて話合いを行い、それぞれ発表した訳ですが、時間制限の中で結論が出る訳も無く、しゃべり足りない方も多々居たのではと思います。参加して思った事ですが、御存知のように今回の改正は、建物の安全性を担保する為に確認時点で完璧な図書を造り、その後の変更是認めない厳しいルールと成っています。設計の時間も増え、審査の時間も増え、予定も立たず、設計者にとっても施主にとっても負担の大きい改正に成っていますが、それだけ建築家の責任は重く成っています。逆手に取って、建築家の地位が向上し、

伊藤 正明(伊藤構造計画工房)



質の高い建築家が生き残る方向に行けば良いと願います。どんどん建てる時代から建築をストックする時代へ変わっていくと思っていたのですが、経済優先の中、壊さず別の場所に建てていると感じます。古い空き家が崩れかけていてもそのまま



本音で語ろう会(12/8)

## 技術交流会発表を終えて「左官仕上げについて」

技術交流会では、貴重な時間を戴きながら満足な講習会になったのか？心配です。日本の建築は、奈良時代に仏教伝来と共に中国から入って来ている。瓦、壁、木材加工等またそれぞの職人共々、寺院建立に携わった。それ迄の建物は掘立小屋に毛が生えた程度だった、と聞いています。

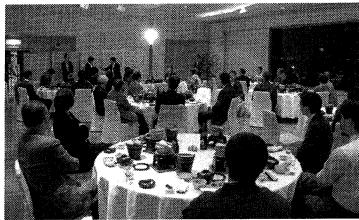


発表者:㈱フッコー・赤松さん 発表者:フジワラ化学㈱・濱田さん

左官は、従来徒弟制度で他人に認められるには、十年二十年の修行を積まなければ一人前にはなれなかった。しかし70年頃から徐々に工法、材料は変わって来た。工期短縮と樹脂の開発により、材

## 忘年会に参加して

12月8日、諏訪市 RAKO 華乃井ホテルで忘年会が開催されました。毎年恒例？となりつつあった松本薬師平 崖の湯 茜宿からがらりと趣向を変え、皆様と酒を酌み交わす場所が座敷から円卓へと変わった今年の忘年会。本音で語ろう会、技術交流会の後に行われた会



忘年会(12/8)

場では、引き続き現在の建築家を取り巻く環境、永遠のテーマである建築及び建築家の使命・あるべき姿・町づくり等々について熱く語られていました。賛助会員である私は、毎回皆様の建築にかける情熱に

## 株コーティングコーポレーション 中川 源右

料は速乾型に、又色合も変色、色むらは殆どなくなってきた様に思われる。住宅での壁下地は九割以上石膏ボード、モルタルで占められる大壁工法、昔ながらの小舞、貫、ベト壁の真壁工法は高級左官仕上げになってしまった。又それらが出来る職人も段々数少なくなって、一人親方で散々ばらばらなのが現状だと聞く。三十七、八年前にジョリパット、マヂックコートが相次いでフランスから入り、又十七、八年前には珪藻土が出来て壁の世界は一変した様に思われる。

先生方にお願いがあります。左官仕事は手仕事なので職人の個性がでます。サンプル板と同じパターンには仕上がりにくいのです。上塗りが始まる時、立合って戴きたいのです。職人達は要望には答えられると思います。それでこそオンリーワンの仕上げなのです。

## フジクリーン工業(株) 松本営業所 松田 保

深く感銘を受け、大変勉強させて頂いております。つくづく建築が好きなんだなあと感心します。正会員・賛助会員の垣根を越えたざくばらんな忘年会での交流はJIAの誇りだと思います。



ホテル内の2次会ではがらっと雰囲気を変えてより親密に酒が酌み交わされた後、小腹をすかせてホテル近くのラーメン屋に集結し、3次会。小さなラーメン屋はJIAのメンバーでいっぱいになり、てんやわんやの大騒ぎに！！

茜宿の露天風呂から観る松本平の夜景に変わり、諏訪湖の絶景に変わった今年の忘年会。茜宿も捨てがたいが、趣向をえた忘年会も捨てがたい？皆様の意見はどうち？！

## 新入会員の紹介

### 小川原設計一級建築士事務所 小川原吉宏

この度、JIAに入会させていただきました安曇野市の小川原設計・小川原吉宏です。

JIAへの入会は、松本・安曇野住宅建築展に参加させていただいた際、JIA先輩方々との交流がきっかけとなりました。

松本・安曇野住宅建築展では松本市美術館との共催による、子どもたちとのコラボレーション「インスタント建築」を企画実施しました。学生時代の延長のようなピュアで創造力あふれる体験は忘れかけていた感覚が思い出され、大変心に残るものとなりました。

他にパネル展示・スライドショーによる住宅建築の紹介、オープニングパーティー等と盛りだくさんな内容でした。400人を超える来場者に、地域と建築家の強い信頼と繋がりを感じたこの建築展は大成功に終わり、愛と情熱を持った先輩方々の人柄・建築観に大変感銘を受け入会する決意をいたしました。

皆様どうぞ宜しくお願ひいたします。



### 尾日向辰文建築設計事務所 尾日向辰文

この度入会させていただきます、安曇野で尾日向辰文建築設計事務所をやっています、打たれ強いけれどホメゴロシに弱いおびなたです。よろしくお願いします。これまででも、ありがたいことに、機会あるごとにJIAに誘われていましたが、一人きりで奮闘している事務所なので、並み居る方々に交じってやっていくのもしんどいかなと思い、頑なに遠慮していましたが、このまま井の中から小さな空を見上げても小さいまだと気づかされ、入会を決意しました(が、ホントのいきさつは早速に参加させてもらった忘年会で話した通りです)。そして、その諏訪での会合では、先輩方の発刺としたエネルギーに、圧倒されつつも大いに刺激を受けました。これからも会員として共に研鑽を重ねながら、次のステップを求めていきたいと思います。



先日、入会の書類が届きました。そこに凛と標された建築家の職能を読むと、こうしてJIAに参加できることが嬉しくもあり、それにも増して身の引き締まる思いです。愛と情熱の家づくり第4集、頂きました。いい本ですね。乗り遅れてしまい残念です。これはぜひ第5集、やりましょう!!

# 賛助会だより

## 「入会にあたって」

新年明けましておめでとうございます。

弊社は、軽井沢で浅間山の軽石を用いブロックをひとつひとつ丁寧に造ることからスタートした会社です。現在は国内でのブロック製造は行っておりませんが、東京本社、軽井沢営業所において、人と環境にやさしい製品と安心・安全を追求したエコ事業を開しております。

そのひとつは、フィリピンの現地法人で製造している「地球環境にやさしい果実の炭：ココ炭」（ヤシガラ炭）です。徹底管理された一貫製法で創り出される均一・高品質なココ炭は、その全量を日本に輸入し、建設、造園、農業、畜産業界等、多岐に渡る業界でご利用頂いております。

他方、南九州の堆積した火山灰のシラスを高温で発泡させた

JIA長野県クラブ 賛助会員 浅間軽石（株）竹重邦之

天然素材の中空体・シラスバルーンを利用した製品の開発を行い、「ココ炭」と併せて、その天然パワーを利用することが、様々な環境問題を解決する手段のひとつになると確信し、「環境との共生」を考え、「純粋」「無害」にこだわったエコ事業を開催しています。（詳しくは弊社ホームページ <http://www.asama-inc.co.jp/> をご覧ください。）



今回、「JIA長野県クラブ」に賛助会員として加入させて頂き、「ココ炭」「シラスバルーン」を多くの方に紹介し、よい環境を維持することに役立つ事ができればと思っております。これを機に何卒よろしくお引き立て賜りますようお願い致します。

## 「思い知りました」

JIA長野県クラブ 賛助会員 長野ピーエス（株）蚊野 真

最近、身内が自宅を新築するという事があり、その建物の設計図面や仕様表を目にする事がありました。分からぬ人にとては、暗号の様なものであり、物の良し悪しの判断がつかないとこの事で相談にやってきました。自分も怪しい所があり、相談にこいと胸を張って言えない恥ずかしさはあるものの、図面を見ると東京の住宅らしい設計でした。断熱はこんなもので良いのか（2×4の住宅にロックウール50mm）、住宅性能はどの様に考えているのか等、つっこみを入れたくなる様な箇所が満載でした。確かにイニシャルコストも大事な事であると思いますが、こんな時代だからこそ、出来るだけランニングコストを抑えられる様な住宅の提案も必要ではないだろうかと感じました。

自分も冷暖房デザインをするにあたり、冷暖房は住宅性能にも密接に関係しており、この良し悪しでランニングコストもかなり変動してきます。それ程寒い所ではないから気にしなくて良いという事ではなく、住まう人がこれから何十年と生活していく事を考えていかなければならぬのでしょうか。建築だけ、暖房だけ、性能だけという事ではなく、これからはトータルの知識をもったスペシャリストとしての自覚をもって施主と接していくかなければならないと改めて自分の未熟さを痛感すると共に、より一層の知識を蓄えていきたいと思います。



## 「いつもいっしょだなあ～」

JIA長野県クラブ 賛助会員 株式会社新和建材 水谷健治

私がJIAにお世話になってどれ位経ったのだろうと、ふと考えました。某メーカー時代は、ただ、飲み会や文化講演会や、飲み会、に参加するだけの所謂お客様でした。

た本人の向上心が無いからなのか。多分その何かが無いから参加しないのだろうと思います。

それから今の会社になって、いつの間にやら事務局の手伝いをしたり、催し物の準備をしたり、広報副委員長とかしていました。所謂裏方ですね。その裏方をやっていてつくづく思う事は、「いつもいっしょだなあ～」です。

しかし生意気ながら、その魅力とかメリットとかは、本人の考え方や向き合い方次第でいくらでも転がっていると思うのです。それくらい価値のあるJIAだと思うのですがいかがでしょうか。何はともあれもっと参加するメンバーが増えればいいなあ～とひとり言…。みなさまへん、お客様の立場で気軽にどうぞ。



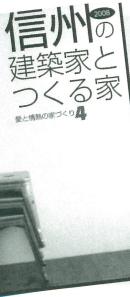
正会員のメンバーも賛助会のメンバーも、参加するのは「いつもいっしょだなあ～」しかしなぜ、いっしょなのでしょう。会に魅力が無いからなのか、メリットが無いからなのか、はたま

## 「信州の建築家とつくる家(第4集)」

(社)日本建築家協会JIA長野県クラブ・編

発売中!!

定価1,500円



## ■今後の行事予定

- 2008年2月16日（土）・17日（日）  
第17回保存問題新潟大会「城下町しばたのいま（保存）と将来」  
(主催：関東甲信越支部保存問題委員会・新潟地域会)  
2008年3月1日（土）・2日（日）  
第2回建築祭（主催：JIA長野県クラブ）  
場所：長野市生涯学習センター（トイゴ）  
・長野県学生卒業設計コンクール・文化講演会・会員作品展

### 編集後記

「愛と情熱の家づくり」も4号目を出し皆さんご苦労さまでした。今号はお金がないので自分のカメラを扱いで大慌てで写真を撮って歩いた。映し歩いて気がついたが、夜の雰囲気がいい。夕食時の一家団欒の時間を素敵な空間で過ごしてもらえる。これは建築家冥利につきるというも、高い吹き抜けが無くとも、1尺角の大黒柱がなくとも、総ヒノキ作りでなくとも、「住みやすく使いやすいですよ」と言われるのが一番だ。しかし、言葉になる壳り文句よりも心で感じるものを作ることが最も難しい。自分の感性をさらに磨き続けなければいけないし、「愛と…」はこれから毎年出版していくことだから、毎回自分にいい刺激を与えてくれてありがとうございます。本年もよろしく。。

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。